

会報

若手技術者の 活性化に関する雑感

京都大学技術士会
会長

大津 宏康



2023 年（令和 5 年）3 月末に松江工業高等専門学校長を定年退職後、大阪に戻り種々の協会、NPO 等で建設分野の若手技術者の活性化に取り組んできました。本稿ではその活動を通じて感じてきたことの一端を紹介したいと思います。

まず、以下の数値に注目頂きたいと思います。

- ・1970 年（昭和 45 年）大阪万博開催時：日本人の平均年齢約 30 歳
- ・2025 年（令和 7 年）大阪・関西万博開催時：日本人の平均年齢約 50 歳

現状 40 歳以下が若手技術者と定義されることが多いようですが、前回の万博の時には 40 歳はベテラン技術者だったことになります。このような人口構成の変化により、以下のような課題が発生しているのではないかと感じています。

私見ですが、技術士に代表されるエンジニアは、単なる要素技術を提供するのみでなく様々な局面でプロジェクトを主導的にマネジメントする、すなわち意思決定することが主要なミッションであると考えています。しかし、いわゆる若手技術者は、前述のように平均年齢が上昇していく人口構造下では、いつまでたっても主導的立場になれず、自己の「成長」を実感できていないのではないのでしょうか。

ここで、「成長」という言葉を使用しましたが、これは若手技術者、特に 30 歳以下の若手の問題意識のキーワードと感じています。今の若者は、自分が職場で成長できるか否かということに強いこだわりを持っているようです。その延長線上として、自身の所属する組織が成長部門/産業であるか否かにも強い関心があるようです。もちろん、昭和のおじさんからすれば、成長するのは自身の努力であり、それを上からサポートしてくれというのは若者の甘えだと感じるかもしれません。しかし、昨今全産業で大学卒業後 3 年以内に離職する率が 30%を越えていると報道されていますが、「今の職場では成長できないという」という意見が離職理由のトップ 3 に入っていることは無視できないでしょう。加えて、行き過ぎた「働き方改革」の弊害かとも解釈されますが、一部報道によれば「ゆるい勤務」ではスキルアップにつながらないとして転職した事例も増加中とのことです。このような職場は、従来から問題視されてきた「ブラック企業」に対して、自身が成長出来ない「ゆるいブラック企業」すなわち「ゆるいブラ企業」と呼ばれているとのことです。このよ

うに、今の若者にとって「自分が成長できる職場」で働くことが最大の関心事になっているようです。

では、何故若手は職場で成長出来ないと感じるのでしょうか。そのキーワードは、「成長」の対極にある、「現状維持」あるいは正確に言えば「過去の成功体験（前例）に固執した現状維持」ということになりそうです。3 年間の高専校長の経験から若者が年寄りの作り出した社会に対して抱いている不満は、「ルール作り至上社会」および「ノーリスク社会」の 2 点に要約されるのではないかと考えています。前者は、ルールが整備されれば問題を如何に改善するかについて思考停止、また現状強調されている多様性を重視するという姿勢とは全く相反という課題を内包しています。後者は、リスク要因を見つけることは重視しますが、それを改善することは特に考えないという課題を内包しています。新たな取り組みおよび成長には確定論に基づくルールでは規定できないリスクが確実に内在します。いずれも、前述の「過去の成功体験（前例）に固執した現状維持」という姿勢から生じる課題であることは言うまでもないでしょう。

はじめに、2 回の大阪で開催された万博間での年齢構成の変化について示しましたが、今私は人口の 2040 年問題を提唱しています。再度、以下の数値に注目頂きたいと思います。

・2040 年の団塊世代（1947～1950 年生）の年齢：90-93 歳

・2040 年の団塊ジュニア世代（1971～1975 年生）の年齢：65-69 歳

現状での人口ピラミッドでは、団塊世代と団塊ジュニア世代で 2 つのピークを形成しています。2040 年には、団塊世代が急激に減少する一方で、もう 1 つの人口ピークを形成している団塊ジュニア世代が高齢者になり、生産年齢人口が急激に減少します。なお、少子化の継続により、生産年齢人口ピラミッドは若年層ほど少ない分布となります。今

から 10 数年で社会環境が確実に変化するようです。

現状、生産年齢人口減少下における生産性向上の方策として、DX の推進が喫緊の課題とされています。もちろん、その方策は有効であると思いますが、前述のような「現状維持」の環境下ではその効果は期待できません。やはり、DX の推進は仕事のやり方・考え方を新たなモデルに改革するビジネスプロセス・イノベーションに資するものであることを若手とシニアが意識を共有する必要があります。つまり、シニアも「過去の成功体験」にこだわらず、若手とともに新たな取り組み、すなわちビジネスプロセス・イノベーションを実装し、そして「成長」することが求められていると感じています。

こうした状況を踏まえて、私は若手技術者が成長を実感して活性化するためには、以下の 2 種類の投資が必要と考えています。

・有形資産：業務/事業にかかわる種々の機材への投資

・無形資産：人的資本への投資

有形資産および無形資産への投資の代表例は、それぞれビジネスプロセス・イノベーションを実装するための DX 環境整備、および人材育成が挙げられるでしょう。では、有形資産と無形資産の相違は何かでしょうか。それは、機材は使い方を間違えなければそれなりに機能しますが、人は能力があってもモチベーションが低ければ機能しないということです。そのため、人材育成プログラムを実施しても、その内容が「やらされ感満載」であれば受講者のモチベーションは向上せず成長は実感できません。したがって、私は人材育成プログラムの内容は、知的好奇心を喚起して能動的に取り組んでみたいというモチベーションの向上に資するものであるべきと考えています。もちろん理想論ではありますが、若手との交流を通じて人材育成にはこのような意識が不可欠であると認識するに至っています。

長々と現状での私の問題意識について示してきましたが、今後ともシニアから若手に至る多くの方からの多様な意見を聞いて私自身も「成長」していきたいと考えています。そして、若手技術者が自分の職場が「成長産業」であるという意識を持って、活性化できることのお手伝いを続けていきたいと考えております。結びに当たり、京都大学技術士会のみなさんから本投稿への意見をお聞かせいただければ幸いです。



大津会長がコーディネータを務めた若手技術者とのパネルディスカッション（建設技術展 2023 近畿）



理窓技術士会の活動

理窓技術士会
会長

大谷一人



2024 年 5 月に第 3 代目の会長に就任いたしました。諸先輩の築かれた弊会の基礎とその推進に微力ながら貢献したいと存じます。

1. 組織の概要

理窓技術士会は、東京理科大学と関連した山口東京理科大学や諏訪東京理科大学との連携の上、技術士有資格の卒業生や諸先生との交流を通じて技術の発展を企図する団体です。

2004 年 1 月に設立された同窓会の組織で、本年度で 23 周年を迎えます。活動の組織としては、運営委員会を構成し、以下のようになっております。

表 理窓技術士会の分掌

分掌名	関連事項
総務	会員管理・運営委員会等の運営
企画・業務	技術懇話会の企画運営・技術士試験の受験指導
財務	会の財務会計管理
広報	活動内容の学内外への PR 会員増活動・会報発行
情報	各種会合のオンライン運営 ホームページの運営

上記の分掌に加えて、会長、運営委員長、姉妹校

での支部長、監事、名誉会長、顧問および評議員で構成されています。

現在の会員数は凡そ 100 名で構成されています。

大学との連携は、副学長および常務理事に顧問を委嘱させてもらっております。

2. 主な活動内容

■総会年1回（5月開催）、運営委員会毎月開催

運営委員会にて様々な運営上の課題や方針を定めて、会の円滑な活動を進めています。年度当初に定期総会を開催して、該当年度の活動報告と次年度の方針など会員の意見など取り入れて進めています。

■会報誌発行(年2回)ホームページリニューアル

都度の最新の情報を会員各位や興味のある方々に配信するように努めています。

■技術懇話会(隔月)、技術者倫理講演会及び見学会の実施

大学の諸先生や技術士として活躍されている卒業生を主体とした技術を主な話題とした講演会を各月（奇数月）に大学構内にて開催しています。現在はオンライン会議での同時配信も実施しています。見学会は関連卒業生が経営若しくは運営されている企業や関連団体に訪問させてもらい実地の技術内容を見学して意見交換などを通じての研鑽に努めています。それら 講演会、見学会等の CPD 受講票の発行も行っております。

■学生向け技術士第一次受験支援講座、技術士補支援

上記姉妹校での第一次試験受験講座の講師派遣を実施しています。更に、技術士補支援も実施しています。

■母校ホームカミングデーへの参加

ホームカミングデーでの技術士 PR パネル展示

や 技術士制度に関する説明会を実施しています。この図はパネルの一例です。



3. 今後の活動や展望など

以上ご紹介した活動や事業を長年継続して、理想技術士会は同窓会の枠組みのみならず、技術士との親和性のある諸団体との連携も強化しつつあります。更に在校生向けの技術士試験の支援を強化して、学内での認知度など向上させて行きたいと思えます。定例の技術懇話会などにも学生の参加を更に増やして若手との交流を進めていきたいと思えます。最後に京都大学技術士会を始め、大学技術士会の参加各位の益々の発展を祈念申し上げます。

付記：弊職写真は御校正門前の中尾写真場にて、長女の京都大学工学博士授与を記念して撮影しました。



2026 年度役員体制

2026 年度の本会の役員体制は下記の通りです。

2026年4月より

氏名	役割、担当
大西 有三	名誉顧問
大津 宏康	会長
立川 康人	副会長
高橋 良和	副会長

嶋田 弘僧	副会長 兼代表幹事
佐伯 賢一	副会長 兼副代表幹事
武山 正人	監事
高宮 脩武	参与
林 克己	参与
武藤 光	参与
石原 吉雄	参与
綾木 光弘	参与、関西
田岡 直規	参与、関西
樋口 義弘	参与 兼事務局
佐竹 孝	副代表幹事 広報
新原 雄二	副代表幹事 企画
今西 秀公	副代表幹事 広報
下村 泰造	副代表幹事 企画
岩住 知一	副代表幹事 関西、広報
宮嶋 直樹	副代表幹事補佐 関西
辻 浩樹	副代表幹事補佐 関西

氏名	役割、担当
辻井 修	事務局
新宮 康之	事務局
栗本 卓	企画
龍原 毅	企画
近藤 一寿	企画
築地 功	企画
阿保 寿郎	企画
山崎 洋右	関西
上田 泰史	関西
千田 琢	関西
久保田 正博	関西
狩野 陽	関西
有野 剛史	関西
仲矢 順子	関西
田邊 陽一	関西
森下 滋	関西
中野 信一	関西
中井 範一	関西、広報
福井 康仁	企画
橋本 宗明	関西
水田 潤一	関西
長澤 英治	広報
佐藤 理	広報
濱田 利正	関西、広報
中山 敦喜	関西
田中 邦保	関西
太古 一貴	関西

第 22 回講演会開催



講師の小林潔司様

2026 年 1 月 29 日に第 22 回講演会が東京丸の内の京都大学東京オフィスにて開催されました。今回は京都大学経営管理大学院の小林潔司特任教授を講師にお招きして、「この国の国土強靱化をめざして」という題目でご講演をいただきました。

この講演会は、会場である京都大学東京オフィスから（Zoom、YouTube）でも配信され、会場とオンライン合わせて約 170 名の方の参加申込みがありました。

小林先生のご講演では、国土強靱化基本法に基づき法定化された「国土強靱化実施中期計画」をはじめ、今後 5 年間で 20 兆円規模の施策が見込まれる国土強靱化政策の最新動向、国の基本計画と地方自治体の地域計画との調和、省庁間連携の枠組み、さらに国際戦略の重要性について幅広くご説明いただきました。

また、ご講演では循環経済（サーキュラーエコノミー）やインフラ群マネジメントに加え、播磨科学公園都市の大型放射光施設 SPring-8 を用いたアスファルト混合物の微視的観察研究など、多岐にわたる話題が紹介され、大変興味深い内容となりました。



第 35 回

「技術士を目指そう」説明会開催

■開催日：2026 年 2 月 14 日(土)13 時半～15 時

■開催方式：オンライン開催（Zoom を使用）

■プログラム：

司会

新原副代表幹事

13:30 挨拶

新原副代表幹事

13:35 技術士について

新原副代表幹事

13:40 技術士資格取得のメリット

新原副代表幹事、嶋田代表幹事

14:10 技術士試験制度について 新原副代表幹事

14:20 京都大学技術士会の紹介 新原副代表幹事

14:30 部門別相談アドバイス 嶋田、新原、阿保

■参加者：3 名の申込みがありましたが、当日参加されたのは 1 名でした。

第 36 回

「技術士を目指そう」説明会開催

2026 年 5 月 8 日（金）、京都大学桂図書館において、京都大学技術士会 第 36 回「技術士を目指そう」説明会を開催し、31 名の参加（現地 6 名、ZOOM 25 名）がありました。

同会の辻浩樹副代表幹事補佐（工学研究科、1996 年修了、建設部門）の司会進行の下、最初に京都大学工学研究科の高橋良和教授（工学研究科・1996 年修了）から開会挨拶があり、宮嶋直樹副代表幹事補佐（応用理学部門）から、京都大学技術士会の概要説明のあと、佐伯賢一副会長（工学研究科・1994 年修了、建設部門）から技術士制度の概要、資格の法的・社会的な位置づけ、求められる資質や能力、試験制度と受験資格についての説明がありました。

続いて「技術士による体験談」として、先輩技術士の原田紹臣様（三井共同建設コンサルタント、建設部門・応用理学部門・森林部門）により、技術士の受験動機や責任ある立場で業務につくための必要資格としての技術士の位置づけのなどについての説明がありました。その後長谷川敦史様（京都大学フィールド科学教育研究センター技術職員）による技術士一次試験（環境部門）合格体験談の仲矢幹事代読による紹介がありました。1 次試験受験からその後の実務経験、今期 2 次試験に挑む決意についても言及されており、参加者が今後のキャリアプランを考える上でも参考になる内容でした。

説明会に続いて、会場参加者・Zoom で 3 班に分かれて個別相談会が開かれ、技術士 2 次試験の資格要件（実務経験年数）についてや、受験する部門に関する疑問点など、参加者から既技術士である会員に対して活発な質疑応答が交わされました。



高橋教授による挨拶



宮嶋副代表幹事補佐による
京大技術士会の活動報告



原田様による体験談



長谷川様の体験談
（仲矢幹事代読）

最後に 2 氏による体験談は当会幹事以外の発表であり、この場を借りて感謝申し上げます。

新規会員の自己紹介

森 卓



農芸化学科（旧）で土壌学を専攻した森と申します。先輩方の道を辿り、アフリカの土壌調査、南米の青年海外協力隊に参加したことがきっかけで、ODA（政府開発援助）の実施を担う「開発コンサルタント」企業を経営しております。

昨今は「復興」をキーワードにした取組みを、海外だけでなく国内においても進めています。世界一肥沃とも言われる黒土が広がるウクライナでは、兵器がもたらす土壌汚染の、分析・評価・回復方法の検討と人材育成を。福島第一原発事故で放射能汚染を受けた飯舘村では、除染土を資材化し下層土として用いた農地での栽培実証とコミュニティ再生を。

どちらも道半ばですが、京大で築いたネットワークに支えられつつ、これからも頑張っています。

【2000 年農学研究科修了、農業部門・環境部門・森林部門、NTC インターナショナル株式会社】



広瀬 政晴

はじめまして。広瀬政晴と申します。電子工学専攻で修士・博士課程を修了後、現職にて約 12 年間、工場建設など設備投資・エンジニアリング業務を主導してきました。近年は全社横断の温室効果ガス削減プロジェクトにおいて、計画策定から実行管理までを担ってまいりました。これらの経験を通じ、経営

工学およびプロジェクトマネジメントの重要性を強く認識しております。今後はその知見を基に、組織横断的なプロジェクト支援を広く提供していくことを志向しております。何卒よろしくお願いいたします。

【2014 年工学研究科修了、経営工学部門、積水化学工業株式会社】



中居 圭二

初めまして、中居と申します。2005 年に工学研究科（都市環境工学専攻）を修了後、京都市に入庁し、公共土木施設に関する仕事（災害復旧、長寿命化、京都駅八条口再整備等）に長く携わって来ました。現在は、仕事の場を官から民へ移し、コンストラクション・マネージャーという形で、微力ながら、公共建設プロジェクトのお手伝いをしております。本会においては、様々な分野でご活躍の諸先輩方との交流を楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

【2005 年工学研究科修了、建設部門、株式会社建設技術研究所】



大島 哲郎

はじめまして。大島哲郎と申します。1979 年に工学部土木工学科を卒業後、近鉄に入社、2023 年に退職を迎え現在に至っています。在職時は、連立工事・駅改良工事など鉄道土木に携わってきました。退職後改めて思いますのは、交通機関の定時輸送の肝は、『安全の確保は、輸送の生命である。』にあるということです。

技術士は、2008 年に建設部門を、翌年に総合技術監理部門を取得しました。監理体系・手法の習得など大変有意義なものでありました。

70 才を過ぎ、新たな一步のきっかけになればと入会させていただきました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【1979 工学部卒業 建設部門・総合技術監理部門】

馬場 隆聡



はじめまして、馬場隆聡（ばばたかあき）と申します。大学・大学院では、京都大学技術士会の会長である大津先生の研究室に所属し、多くのことを学ばせていただきました。現在は、建設会社にて高速道路橋を建設しております。

先日、関西の京土会の集会で大津先生にお会いする機会があり、本会についてお話を伺いました。技術士は、2022 年度の二次試験（建設部門）に合格しました。微力ながら先生のお役に立てればと思い、このたび入会させていただきました。

好きなものはワインで、その興味が高じて、先日ワインエキスパートの資格も取得しました。建設業に限らず、さまざまな分野について学んでいきたいと考えております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

【2019 年工学研究科修了、建設部門、大成建設株式会社】

吉ざわ 努



はじめまして、吉ざわ 努と申します。私は、1985 年に農学研究科畜産学専攻修士課程を終了後

農林水産省に入省、2020 年に農林水産省を退職後現在は一般社団法人家畜改良事業団で補助事業の進行管理を担当しています。

農林水産省時代は畜産振興のための補助事業、技術開発支援などを行ってきました。技術資格は農林水産省時代の経験を畜産業の支援に活かせないかと考え、農林水産省退職後の 2020 年に農業部門（畜産）を取得しました。

微力ですが少しでもお役に立つことができればと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【1985 年農学研究科、農業部門、（一社）家畜改良事業団】



中野 優

学部時代は物理工学を学び、アーチェリー部での活動のほか、大学プログラムを通じてオーストラリアやイギリスへ短期留学していました。

大学院では半導体の一分野である MEMS（微小電気機械システム）の研究に取り組み、修了後も引き続き関西で MEMS センサの開発に携わってまいりました。現在は IT 部門にてデータ利活用の業務に従事しております。

また近年は、他大学ではありますが、夜間休日の社会人大学院にて経営学の修士課程で学んでおり、10 年ぶりの学生生活も味わっております。

皆様との交流を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【2016 年工学研究科修了、経営工学部門、オムロン株式会社】

太田 正彦

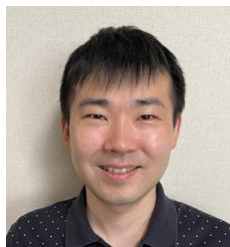
このたび新規入会いたしました太田と申します。

1994 年に工学部交通土木工学科を卒業後、2016 年まで鉄道会社で主に鉄道土木構造物の設計に携わり、その間に資格を取得しました。

その後一時的に別分野に従事しましたが、2024 年より現職にて再び鉄道土木構造物の設計を生業として、資格を活用することが叶いました。

本会の設立については寡聞にしてつい最近まで存せず、偶然の出会いでした。年齢的に今更どうかと思いつつも、「技術者は生涯研鑽」との信念から参加を決意しました。皆様のお役に立てればと思います。よろしくお願いいたします。

【1994 年工学部卒業、建設部門・総合技術監理部門、株式会社東急設計コンサルタント】

底押 辰弥

はじめまして、底押辰弥と申します。工学研究科を 2011 年に修了後、関西電力株式会社に入社し、国内送電設備の設計・保守業務等に従事しました。2019 年からは英国に駐在し、海底直流送電案件の開発・投資管理等に携わりました。帰任後は欧州の再生可能エネルギー案件投資等を経て、2023 年からは丸の内インフラストラクチャー株式会社の投資本部にて国内再生可能エネルギー・蓄電池等のインフラ投資業務に携わっております。

技術士資格は、2024 年度に総合技術監理部門および電気電子部門に合格し、2025 年度に登録しま

した。

趣味はヴァイオリン演奏で、学生時代よりオーケストラ活動を続けております。皆様との交流を通じ、多くのことを学ばせていただければ幸いです。

【2011 年工学研究科修了、総合技術監理部門・電気電子部門、丸の内インフラストラクチャー株式会社】

竹内 廣高

この度、新規入会致しました竹内です。平成 3 年に工学研究科(土木工学専攻)を修了後、ゼネコンの間組に入社し、現在は、グループ会社である青山機工関西支店に勤務しております。

技術士は平成 14 年に建設部門で取得しました。当時は山奥で橋梁工事に従事しており、宿舎にて上司と共同生活を送っておりました。夕食後、上司のお酒の相手をするのが嫌で、技術士の勉強を理由に誘いを断っていたことなど、懐しく思い出します。ゼネコン人生のほとんどを、明かり工事の施工部門で送ってきましたが、現在は、現場業務からは引いて、これまでの経験や人とのつながりを生かした仕事为主となっております。今後とも、宜しくお願い致します。

【1991 年工学研究科修了、建設部門、青山機工株式会社】

太古 一貴

皆さま、はじめまして。2025 年に建設部門で技術士登録致しました、太古一貴と申します。私は、前田建設工業に入社してから、高速道路工事、発電所工事等を経験してきました。技術士二次試験は、

今回が 3 度目の受験で、過去 2 度の反省を活かし、十分な勉強時間の確保を第一の課題として臨んだ受験でした。まとまった時間を作るのは難しかったので、隙間時間をできる限り活用しました。ご指導頂いた方々のご協力と、運も味方し、合格することができました。経験を糧に、今後は後進のサポート並びに、技術力の向上に邁進して参りたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

【2014 年工学部卒、建設部門、前田建設工業株式会社】

河村 一秀



電気工学専攻、複合システム論講座に在籍しておりました。研究室の Linux 端末に親しみ、先輩から「Sler ってシステムを 1 から作って面白そう」と聞いたのが、純電気→情報の分野を志すきっかけとなりました。社内でキャリアが一時的に迷走する中、IPA の IT ストラテジストなどに合格し、その先のコミュニティで技術士という資格の存在に改めて気づきました。第一次試験は専門科目が免除ながら、基礎科目で化学の酸化数を誤答するという、大学受験生だった私には顔向けできない結果でしたが、準会員として加入致します。あの頃から少し上等になった筆箱を携え、第二次試験も頑張ろうと思います。

【2012 年工学研究科修了、情報工学部門、富士通株式会社】

野田 和宏



はじめまして、野田と申します。

2002 年に農学研究科（生物資源経済学専攻）を

修了後、現・株式会社日立アカデミーに入社し、以来、人材育成やデジタルコンテンツ企画の業務に従事しております。

当技術士会での交流を通じて知見を広げ、社会に貢献してまいりたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

【2002 年農学研究科修了、情報工学部門、株式会社日立アカデミー】

村井 竜也



はじめまして。村井と申します。

2006 年に工学研究科都市社会工学専攻を修了後、NTT 西日本に入社し、電気通信設備の構築や維持運用に関わる業務に従事しています。西日本エリアの様々な場所での勤務を経験しましたが、現在は鳥取支店に在籍しております。

京大技術士会の皆さまとの交流により研鑽を図ってまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【2006 年工学研究科修了、電気電子部門、NTT 西日本株式会社】

築山 秀明



初めまして。築山秀明と申します。

私は 2022 年 3 月に農学研究科地域環境科学専攻を修了しました。その後、大成建設株式会社に入社して PC 上部工事の施工管理を経験しました。現在は株式会社安藤・間で、同じく PC 上部工事の施工管理に従事しています。

2025 年度に建設部門(鋼構造及びコンクリート)に合格しました。

学生時代、コンクリートの研究をしていた訳ではありません。ですが、今後はコンクリートの技術者として継続研鑽しようと思います。今年度はコンクリート主任技士とコンクリート診断士を受験予定です。みなさま何卒よろしくお願いいたします。

【2022 年農学研究科修了、建設部門、株式会社安藤・間】

児玉 浩惇



はじめまして。令和 8 年 3 月に技術士登録し、この度入会いたしました児玉と申します。

2017 年に工学部地球工学科を卒業後、マリコンにて港湾・海岸施設の施工管理(3 年半)、設計(5 年弱)を経て、現在は洋上風力発電関連の部署にて、モノパイル基礎の諸検討に携わっております。

京大技術士会では、様々な専門分野の情報収集、人々との交流を通して、自身の視野を広げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【2017 年工学部卒、建設部門、五洋建設株式会社】

小山 達也



はじめまして、小山達也と申します。

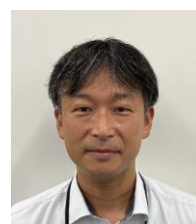
2009 年に工学研究科材料工学専攻を修了後、新日本製鐵(当時)に入社して自動車のパワートレインに用いる鋼材の研究開発、2019 年に三菱電機

に入社して主に宇宙機・防衛機器に用いる材料の研究開発に従事しています。

学生時代は居合道部に所属し、体育館で汗を流した後、よくルネでパフェを食べ、よく百万遍の居酒屋でビールに溺れていました。就職して地方に移りましたが、転職して懐かしの京都に舞い戻り、学生時とは違った目線でまた京都を楽しんでいます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【2009 年工学研究科修了、金属部門、三菱電機株式会社】

井元 康文



皆様はじめまして、井元康文と申します。

私は、工学研究科(土木工学専攻)を修了後、旅行代理店に 2 年勤務し、大阪府庁に入庁しました。大阪府では、水道や道路に関する業務を担当しておりましたが、平成 23 年に大阪広域水道企業団が大阪府水道部の事業を承継することとなり、その際に身分移管し、以来 15 年間、水道行政に携わっております。

同じ職場の先輩方から技術士試験についてご指導いただき、2025 年度の試験に合格しました。3 人の子供の育児と仕事に追われる毎日ですが、自分自身の技術の継続研さんはもとより、人材育成に注力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

【2003 年工学研究科修了、上下水道部門、大阪広域水道企業団】

一次試験合格で「準会員」として入会できます。準会員の入会もお待ちしています。

会員の自由投稿募集

本紙に掲載する会員の皆様の自由投稿を募集します。掲載ご希望の方は、下記の内容を下記の会報担当アドレスまでお寄せください。

《自由投稿 執筆要領》

- ① 標題（概ね10文字以内）
- ② 内容（技術士として、京大との関わりなど、ご自由に300文字程度）
- ③ 最終行【】内に【卒業（修了）年、学部（研究科）、技術部門、所属】を記入
- ④ 顔写真（JPEG形式）

《会報担当アドレス》

office@ku-pe.net

会員の皆様へ

1. 入会・登録情報変更方法

[京都大学技術士会ホームページ](#)から必要な情報をお送りください。最近、登録いただいているアドレスにメールが届かない事例が多くなっております。メールアドレスが変更になった方は、事務局までお知らせいただきますようお願いいたします。

2. 京大卒の技術士さんに入会をお勧め下さい

京大卒の技術士さんをご存じでしたら、ぜひ入会をお勧めくださるようお願いいたします。

3. 講演会などの行事にも参加をお勧めください

現在のところ、会員以外の方も講演会に参加できるようにしています。同僚の方や同窓の方などに、開催通知を転送していただければ幸いです。

4. ご提案、ご意見お待ちしております

イベントのご提案や、改善すべき点などのご意見は、[ホームページ](#)からお願いします。

編集後記

今年のゴールデンウィークは関東近郊の「花の名所めぐり」をしました。



ひたち海浜公園のネモフィラ



羊山公園のシバザクラ

名所ではありますが、いずれも広いのでほどの込み具合、押し合いへし合いにはならずに楽しめました。

皆さんもぜひ。

（今西 秀公 1993 年工学研究科修了、建設部門・総合技術監理部門、前田建設工業株式会社）